

自然美との出会い Encounter with Natural beauty

御来光の滝 (64) 石鎚山の南麓にかかる仁淀川の源流、百選三難攻のひとつ

令和2年4月2日
愛媛県久万高原町若山

築瀬 知史

東日本高速道路株式会社／日本緑化工学会 会長 (xsmay8@gmail.com)

3年余りで93滝訪問できたのもツキという他ない

日本の滝百選は、日本全国に散りばめられていることは前回記したが、1日1滝ではとても達成できるものではない。日本全国となると交通費も馬鹿にはならない。ただ、ついていたのは、子供たちの手が完全に離れる日が間近だったこと、消化できずに捨てていた有給休暇の完全取得ができたこと、出張の前後、特に令和元年9月の九州大会は大きな後押しとなった。

夏休みを絡め、熊本空港に前乗りし、鹿児島、宮崎、大分と周り熊本に戻り、計13滝を2日半で周り、夕刻にある理事会に間に合うよう福岡へと戻った大強行を思い出す。九州地方17滝では、西表島は二月前に訪問済、屋久島と大会翌日のレンタカー予約忘れて断念した佐賀県唐津市にある2滝、計3滝を残すのみとなった。

出張や行事に合わせて行った滝の方が多くことは言うまでもない。令和元年(平成31年含み)に訪れた53滝のうち、37滝が何かのついでに絡めて行っていることになる。

令和2年は、どちらがついでかわからない感じの屋久島から始まる。土曜日マイカー規制が始まる前日となる2月29日、羽田朝一乗継便を使い超特急で縄文杉に。翌3月1日午前中大川の滝、福岡直行便を使い夕方に唐津2滝。

翌月の石鎚スカイライン閉鎖解除を待つて四国の百選コンプリートへと続く。

丁度疫病が蔓延し始めた頃である。不運ではあるが、半年以上前からの飛行機予約が多く、キャンセル料(途中から無料に変わるが)を考えると簡単にはやめられず、「滝行=3密にはならない健全性」という錦の御旗に加え、公共交通機関はガラガラ、新幹線半額、旅行補助など激安交通費と宿泊費とくれば、妨げるものは何もない。残り40滝では、1日1滝という所も多く、止めればタイムリミットが刻々と迫る一方となる。

今回は、初めての1日1滝であり、滝紀行を残そうと思うに至った愛媛県「御来光の滝」を紹介したいと思う。

新潟勤務時代は、職務上火曜日以外は比較的時間の調整が取りやすく、新年度早々の木金休み。水曜日の勤務終了後新潟空港へと自転車転がす。新潟市内は坂が少なく、自家用車を単身赴任先に置いたことがない私にとってはありがたかった。最終便で伊丹へ。疫病下で乗客は数える程。前後左右誰も座っていない。

梅田で賑わいの全くない店で旧知と酒を酌み交わす。松山行の夜行バスの乗客は僅か2人。運転手がやってくるまでどこに座ってもよいという。

7時40分にレンタカー屋に着くと、20分早い手続きさ



写真1 御来光の滝 普段は細い御来光が太く暴れ、岩壁は黒光る

せてもらえた。15分早くスタート。思っていたような朝の渋滞もなく、石鎚スカイラインの通行止は前日に解除され、快適に長尾尾根駐車場に着くことができた(9:20)。

疫病の影響かも知れないが、駐車場に他車は停まっていない。私の滝行姿は赤基調で目立ちすぎて、公共交通を利用するのは憚られ、着替えはいつも現地で行う。途中、スカイラインで引き離れた2トトラックが着き、ヒッピー風のおじさんが腹を突き出しながら3分程ウロウロした後、立ち去った。かつこ悪い。…ああは、なりたくない。

北西方向に御来光が小さく見えている。

事前に見ていたネット上の風景は写真そのまま、前日の雨の影響でガスすることも心配したが、確り晴れていて一安心。足首のサポーターなど、三難攻に臨む以上、装備は万全を期した。沢(面河(おもごう)川)へのアクセスが高低差300mの急坂で、ここだけはトレッキングシューズとも考えたが、未だ足に馴染まず、始めから水陸両用靴で行く。ああでもないこうでもない、思いの外、準備に時間がかかる。

遠くの石鎚山と御来光を写真に納め、駐車場出発(9:42)。情報通り、駐車場から車道を100mほど上に向かった所にカーブミラーがあり、ガードレールの奥に明らかな踏分跡を難なく確認できた(写真2)。

いくつかのネット情報で、帰り道で迷わないように…とあり、今回は珍しくリボンを用意した。衝撃桃色全盛だが、あまり山で見ない橙色を選び、役立つ否かは不明だが連番を振った。道は非常に分かり易かったが、今までの経験上、戻るときに、何度か道に迷うことがあり、急坂の10か所に残した。

踏分に入りすぐに急斜面があり、確りとしたロープが張ってあった。ありがたく使用させてもらう。

前日の雨で、道は滑りやすく、何度か危うく転倒しそうになった。

踊り場でうろつき10本のリボンを付けた割には思っていたよりも早く、沢の左岸側に降りることができた(10:07)。

ある主さんの情報で上流側にある笹の堰堤が下流側に見える。主さん…わかりにくいというよりも、ルートの間違ったのでは？



写真2 面河川への降り口



写真3 普通は伏流している箇所だが、この日は普通の沢



写真4 面河川でこの辺りだけ岩質が違う平滑な河床

面河川は、ここから少しの間、伏流していた(枯沢)と多数の情報にあったが、雪解けと前日の雨の影響か、この日は普通の沢で、渡渉無しに対岸の遊歩道には行けない(写真3)。

少し先の左岸側に細長い滑滝があり、右岸側にブルーシートの塊と先人が残したリボンが見える。迷わず渡渉する(10:11)。遊歩道にするか沢登りにするか迷っていたが、渡渉時の水の冷たさに怖気づき、不帰同様即座に遊歩道を選んだ。

遊歩道は大きく蛇行する面河川をショートカットする程度かと高を括っていたが、結構なアップダウンがあって最初から辟易した。

次の渡渉は、いわゆる千畳敷的な岩が河床に敷き詰められた感じで、平滑な岩盤上の流れを渡る。ここは、御来光の他所とは岩質が異なる(10:27 写真4)。

その次の渡渉点では膝まで濡れた(10:32 写真5)。

面白味も減って冗長さが出てきたころ、右岸側に、七釜(10:35 写真6)、犬房滝(対岸の支沢 10:40)、魚止の滝(10:41 写真7)と見えた。無理すれば降りられそうにも思えたが、ここまででほぼ1時間。ルートの不安もあり、体力を温存して、先を急いだ。



写真5 渡渉点にはリボンが沢山ついている



写真6 仁淀ブルー感がしっかり出ている七釜



写真7 魚止の滝



写真8 仁淀ブルーに立ち止まる



写真9 ×字滝付近で遊歩道を見失う



写真10 難攻の右岸(左側)側の岩

渡渉を何度も繰り返すが、相変わらず沢は勢いが強い。普段は、飛び石を伝って楽に渡れる箇所だと思うのだが(10:58)。ルートも沢沿いが増えて、仁淀ブルーに思わずシャッターを切る(写真8)。数回渡渉を繰り返し、支沢の×字滝(自称)に到達(11:06写真9)。沢沿いに進んでいた遊歩道が途切れる。

南側斜面は崩落か?と思えるほど土が見え、ルートを間違えるかも?という不安もあって、ここからは、沢登りで行く。実際の遊歩道はこの崩落然としたとんでもない急斜面に続いているが、下からはルートが不明瞭で往路では発見できず。

当然のこと、ここからは沢も急傾斜となり、落流(落差5m以上だと「滝」)も多い。下からは、進みやすい所が見えるが上からは直近まで行かないと見えないこともあり、振り返っては、目印リボンを確認し、見えなくなる前の適当な所に順次10本程つけた(結局は無意味だった...)

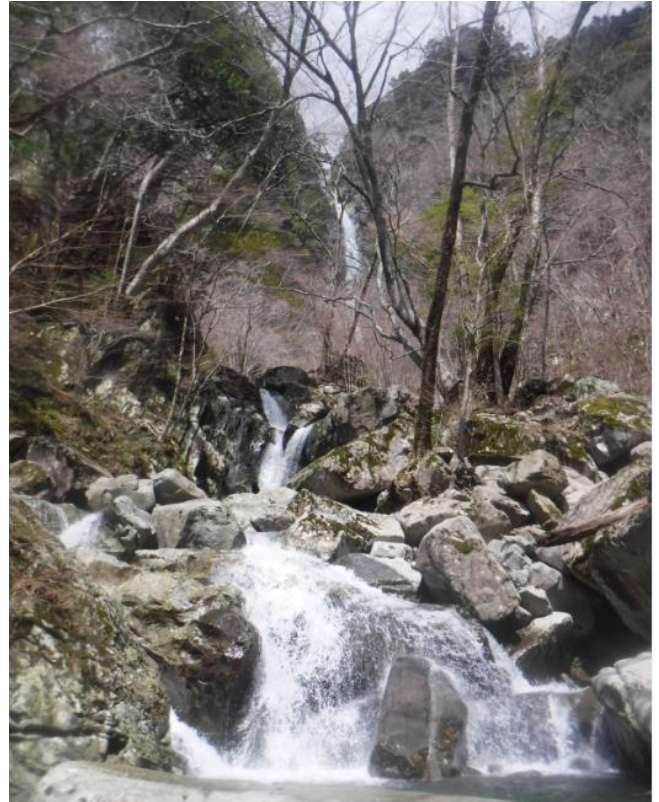


写真11 木々の切れ間に御来光の姿が...



写真12 落ちそうに張り出した右壁上部の岩

仁淀(「面河」は、仁淀川上流の愛媛県側の名称)ブルーを楽しみながら10分程行くと、右岸側が狭くなり斜度40度以上の滑り易そうな一枚岩が出現(11:16写真10)、渡渉して滑って落ちると腰まではつきそうなどころ。水面に着かないように岩をへつってなんとかクリアした。

しばらく進むと右岸側の支沢に滑滝があり(11:20)、本流は右へと方向を変える。さらに高度を上げていくと、水音が大きくなってきた。前衛の滝と思われる小滝の向こうに、御来光が姿を現した(11:25写真11)。

ここから、接近すること5分程度で遊歩道と合流できたので、20分程楽しんだ沢登りを終了し(11:29)、そこから遊歩道を進んだ。5分程進むと、遊歩道は姿を消し、再度、沢部の岩登りで壺を目指した。

自身知る限り情報よりも遥かに多い水量と震える程冷たい

飛沫に感動する（11:43 写真 1）。

今までの沢の水量が多かったことも頷ける。

無駄なシャッターを何度も押してしまう。

南向きの御来光は、陽光を浴びて黒光りし、右側の上部の岩は、今にも落ちんばかりに張り出す（写真 12）。壺は落下場所から少し離れているので、少しだけ穏やか。虹が掛かる。

飛沫だらけの自撮り（11:50 写真 13）と誦経を済ませ、大岩に腰を下ろし小休止。天候も良く、最高の惚けタイム。

名残惜しくもあり、少し離れてから、再度、御来光を拝む（12:03 写真 14）。

帰路では、はっきりと見えたので遊歩道を降りた。

綺麗な水色に足を止め、写す（写真 15）。

ちょうど1時間後、最初の渡渉点に到着（13:03）。

翌日以降時間があったので、面河川を沢沿いに遡り、小さな滝まで寄り道をした（写真 16）。

駐車場までの登り返しは辛かった。九十九折りの返し点で何回立ち止まったか。

翌日からしばらく滝行初の筋肉痛に泣かされた。

後日落差 102m の 3 段瀑と知る。上部は見ることができない滝だということか...

もう一度行きたい。誰か案内できるだろうか？

<了>

滝に興味を持たれた方は、こちらをどうぞ！

<https://www.instagram.com/xsmay8/>

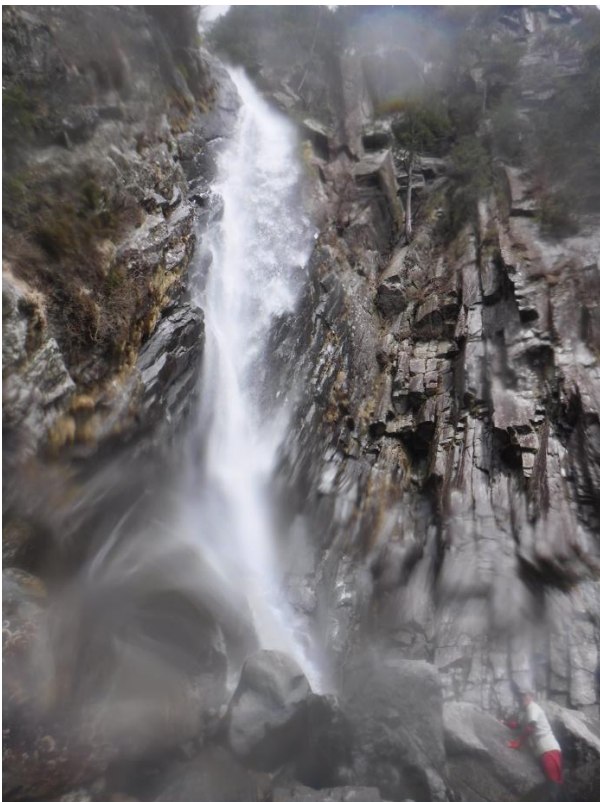


写真 13 自撮り



写真 15 清流日本一の源流は、やはり美しい



写真 16 寄り道の沢歩きで行った落流



写真 14 名残惜しく振り返った御来光

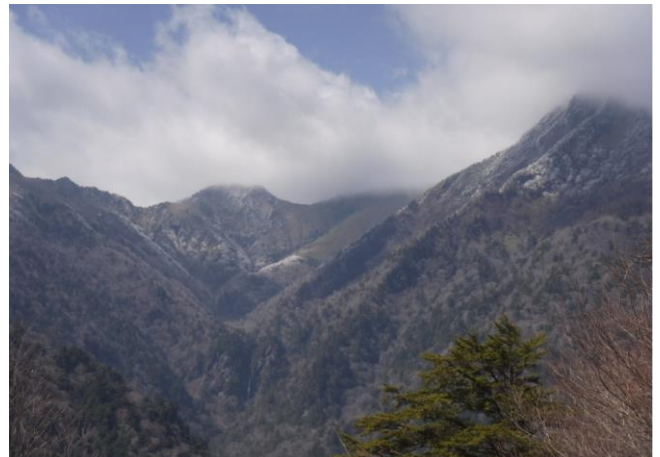


写真 17 石鎚山（左中奥）と小さく見える御来光